

# 令和6年度. 新たな郷わかたけ地域連携推進会議(議事録)

- 1 日時 令和7年2月26日 午後3時30分～午後5時10分
- 2 会場 障害児・者一体型施設新たな郷わかたけ 多目的ホール  
(宮古市崎鍬ヶ崎第4地割1番地42)
- 3 出席者 (委員) 摂待みゆき 様  
豊島喜美子 様  
鷹嘴三和 様  
石垣達也 様  
佐々木大介 様  
佐々木重光 様  
箱石道子 様  
  
(事務局) 高屋敷大助 (新たな郷わかたけ施設長)  
岡崎薫 (児童発達支援センターかぐや所長)  
久坂義臣 (障害者支援施設かあむサービス提供責任者)  
中村仁 (新たな郷わかたけ総務課)
4. 議題
  1. 開会、趣旨説明
  2. 出席者紹介
  3. 新たな郷わかたけの機能と役割
  4. 施設見学(かあむ、らいず、かぐや)
  5. 事業所(内容)の紹介
    - (1) 3事業所共通事項
    - (2) 障害者支援施設かあむ
    - (3) 障害児入所施設らいず
    - (4) 児童発達支援センターかぐや
  6. その他
  7. 各委員からのご意見、ご助言等
  8. 閉会

## 5. 議事

議題1、3～6について、事務局の各担当より配布資料及びスライド・動画にて説明を行った。

議題7 各委員からのご意見、ご助言等は以下のとおり

### 【摂待みゆき 様】

私の息子はかあむの生活介護／短期入所を利用させて頂いております。11月にはかぐやの三鉄イベントに参加させて頂きました。この場をお借りして感謝申し上げます。

些細な事ですが、本人は意思疎通が困難なのですが、短期入所のサービス利用中の様子について職員の方に確認したとき、日中しか見ていないので分からないとお返事がありました。連絡帳な

どで様子を教えて頂ければ嬉しいです。お忙しいと思いますがご検討頂ければと思います。今後ともよろしくお願い致します。

**【豊島喜美子 様】**

今まで、らいずにいらっしゃる方、かぐやを利用されている方などと聞いても今までピンとこなかったのですが、施設見学や事業報告を受けて理解できました。

下閉伊地区が今後どのように変わっていくのか心配していたのですが、かぐやのスタッフが市町村に出向いて支援をされていることについてとても安心できました。今後ともよろしくお願い致します。

**【鷹嘴三和 様】**

小学校でも避難訓練を実施していますが、実際の緊急時には施設ではどのような体制をとられているのでしょうか？

(事務局) 児童施設のため、避難訓練は毎月実施しています。実際の緊急時の際は、ご利用者の様態が様々なので駐車場までの避難が限界です。そこを超えてしまいますと、ご利用者が行方不明になるなどの次のリスクが発生するためです。訓練ではかあむのご利用者は車椅子が多いため、水平避難するところまで行っています。実際の火災の場合はその後スベリ台を使った避難になります。

この建物は、津波や水害などの危険区域ではないためそれらの心配はしておりません。災害発生時には、私たちが地域の障害者の方々の受け入れを致します。

小6の児童が施設で学習している様子を見て、学校での様子と変わらず、落ち着いて生活しているのはこのような環境があるからなのかなと感じました。

この1年間学校での生活を登校から下校、健康管理、清潔保持などとても安心してしています。特に修学旅行では心配していましたが、ご助言やフォローなど頂いて、本人も最後まで楽しく旅行できて本当に良かったです。

職員の皆様が専門的な研修をされたり、いろいろなお子さんを預かる面でご苦労されていると思います。学区が同じですので、今後も施設と連携を深めて参りたいと思いますので、どうぞよろしくお願い致します。

**【石垣達也 様】**

障害児・者一体型施設ということで手探りの中で職員の皆様が工夫を凝らして活動していることが見て取れます。本会議についても、他の事業所からはお話を頂いていない中で、考えながら会議を開催し、改善に向け活動されています。

この地域連携推進会議において、ご利用者を交えて意見交換できるように頂ければ良いと思います。

この会議については、公表されると思いますが、施設の活動の広報を工夫して頂きたいです。らいず、かあむ、かぐやの事を知らない保護者の方々がまだいらっしゃいます。市の方でも広報活動を継続していきますが、皆様に情報が届くよう取り組みをお願い致します。

避難訓練も大変だと思いますが、日中帯だけではなく夜間の職員が少なく応援者に期待できない状態でどのように避難ができるか、水害などで職員が出勤できない状態など、様々な想定で訓練を実施し、課題解決に向けて改善をお願い致します。

【佐々木大介 様】

事前に資料を頂いて拝見し、率直に感じたことですが、虐待に関するセルフチェックリストについて、各職員が正直に回答されていました。質問ですが、チェック項目の7「ご利用者を長い時間またせたりしないようにしている。」について、人によって時間の感覚が変わると思うのですが、施設の対応についてどのようにされているのか？

(事務局) 職員は正直に回答していると思う。らいず及びかぐやはご利用者が少ないのですぐに対応できると思っております。かあむはご利用者が40名ですので、PHS型ナースコールにて対応しています。特にトイレからのコールはすぐに対応はしています。

しかしながら新型コロナのクラスター対応時にはご利用者の皆様には大変ご不便をお掛けしました。

職員の皆様は丁寧にそして正直に回答されていると思います。今後も質の良いサービスに繋がるよう期待しています。

【佐々木重光 様】

今まで障害児との連携は当たり前のようにやってきました。親御さんとの連携もあり、また想いもあって、このような施設できて大変良かったと感じています。

障害児の施設に家内も務めた経験があって、私自身手伝ったこともありました。

他の施設の運営推進会議にも出席していますが、この会議の資料がオープンで、特に職員アンケート結果からは、精神のフォローアップは施設全体で考えていかなければならないと思います。

このような施設は少子高齢化の中でとても重要な施設であり、国策としてもっとも力をいれなければならないと思います。あるグループホームの推進会議でもお話ししましたが、そもそも基準自体が合致していないと感じています。夜間の職員が1名というのは難しいと市議会議員との懇談の中で話をしました。国の制度の基準だからと話しでしたが、施設の方々が実態を把握して国へ要望や大きな声をあげなければならないと思います。

先ほどの避難訓練の話もありましたが、夜間想定は大事ですし、リスクマネジメントの面から見れば、火災と地震があると思います。学校の主人公は児童・生徒ですが、2階のかあむは逆で職員がやらなければなりません。常にイメージして指示・対応そして動けるようにしてほしいです。

これからのカギは地域連携です。そういった意味で我々も防災士会を作っていますし、受入訓練など、いかに地域との連携をとるかが重要です。

そのほか、在宅の避難行動要支援者の課題があります。宮古市としては名簿を作成していますが、我々が把握している情報は約4割で、残りの方々への避難行動の支援をしていくかがポイントです。有事の際はお互い助け合って命を救う地域を作っていきたいと考えております。

こういった施設があるという素晴らしさ、その中で働いている職員に感謝したいと考えておりますし、そして家族の方々とスクラム組んで行けるような世の中になって欲しいと願っています。

【箱石道子 様】

施設とは食材関係でつながりはありますが、初めて施設の中の様子を見る事ができて良かったです。強度行動障害者支援について、児童を預かるだけではなく、できる事を探ったりなど様々な支援をされていることを知ることができました。資料の写真や施設を拝見して、ご利用者が笑顔で楽しそうで、地域に必要な大切な施設だなと感じました。本日はありがとうございました。

(事務局) 皆様から頂きましたご意見・ご助言は、今後の施設運営に活かして参りたいと存じます。本日はありがとうございました。

